

黙示録20章1-6節 「千年王国」

1A 悪魔の幽閉 1-3

1B 底知れぬ所 1

2B サタン 2

3B 千年の封印 3

2A 聖徒たちの復活 4-6

1B 多くの座 4

2B 生き返らない使者 5

3B 千年の統治 6

本文

私たちは、ついに黙示録の頂点とも言える出来事、イエス・キリストの再臨の幻を前回読みました。獣、反キリストの率いる軍隊が、神とキリストに対して戦いを挑みますが、イエス様は口から出る剣をもってそれらをことごとく滅ぼされます。主の名前がいろいろ呼ばれましたが、体中に書かれていた名は、「王の王、主の主」であります。そして、それらの軍隊は殺され、その死体が積み上がり、それを猛禽類が食べるので、「神の大宴会」と呼ばれ、そして獣ともう一頭の獣、すなわち偽預言者は、生きたまま火と硫黄の燃えている池に投げ込まれます。イエス様は、これをゲヘナと呼ばれていました。

そしてその後の話が20章に書かれています。私たちは、主が地上に戻って来られて、エルサレムから世界を統治する、地上における神の国の幻について見ていきます。イエス様が、「御国が来ますように。」と祈りなさいと言われた、神の御国です(マタイ 6:10)。そして、悪の権化、反キリストと偽預言者に、その力と位と権威を与えていたサタン、悪魔、竜に対して神が裁きを行なわれる場面を読んでいきます。

私たちは、絶えず信仰生活と、教会生活において知っておかなければいけないのは、「国」ということです。国というのは、そこに支配があって、権威があって、そし国の中に生きることによって、そこに秩序と平和、豊かさがあるということです。神が支配しているのであれば、そこはそのまま神の国であります。その世界に、反逆して対抗し、また模倣することによって多くの者たちを惑わし、何とかして神の働きを阻もうとしているのが悪魔であり、私たちはその相克の中に生きていけるでしょう。

一言で、神の国といっても、いろいろな意味合いで聖書には登場します。まず、「永遠の御国」があります。永遠の御国というのは、この世界が始まる前から神がおられ、永遠に神がその王座に

着いておられるということです。どんなことがあっても、神がおられます。神が支配していない領域は何一つなく、悪魔が反逆している時でさえ、その反逆をも手中に収めておられる状態を話します。黙示録でも、サタンや悪霊どもの仕業でさえも、御使いによる鍵によってのみ解き放たれるなど、神の究極の支配から離れることは決してできません。

そして、「イスラエルを神が選ばれた」というところに、神の国が地上に現れています。神はアダムを造られましたが、彼が罪を犯したために、地は呪われたものとなりました。そして、カインがアベルを殺し、その子孫が暴虐になり、それで水をもって神はその時代を滅ぼされました。ノアとその家族によって、再び地を祝福しようとされましたが、シヌアルの地のバベルの塔事件によって、言葉が混乱し、世界中に散らばり、それで民族や国語ができました。しかし、神はウルの町に生きるアブラムを呼び出されて、彼によって新たな民、新たな国を造ると約束されたのです。そして、アブラムからイサク、それからヤコブが生まれ、ヤコブの家族はエジプトで増え広がり、主はシナイ山のふもとで、「あなたは宝の民になる」と約束されたのです。そして、ダビデの時代に、ダビデに対して、「あなたの世継ぎの子が永遠の国を受け継ぐ」ことを約束されました。このようにして、イスラエルという国、また民族を通してご自分の支配を明らかにしようとされました。

ですから、永遠の御国があり、そしてイスラエルの国があります。次に、新約聖書では「奥義」とも呼ばれる、「霊的な御国」が広がります。そう、教会であります。イスラエルの民が、自分たちのメシヤを拒んだために、異邦人にも救いが広がりました。アブラムの子孫に、信仰によって連なり、神の家族として招き入れられました。ユダヤ人も異邦人も、キリストにあって一つになり、一つの国民になりました。そこには、キリストをかしらとする支配が広がっています。それが霊的な御国であり、教会であり、私たちはまさに、その現場にいるのです。

そして、神の御座のある天があります。黙示録 4 章において、ヨハネが天に引き上げられ、そこで神が御座に着いておられ、二十四人の長老がおり、四つの生き物が絶えず神を賛美し、礼拝していました。その天は、神のおられる御座があるところであり、パウロはそれをコリント第二で第三の天とも呼びました。そして今、神は聖霊の働きを教会によって行われていますが、いつかその時の終わりが来ます。教会は地上から取り除かれ、天に引き上げられます。その天については、「天国」ということで、私たちはかなり意識し、信じていることでしょう。

しかし聖書には、事実、この地が天におられる神の御心のごとになることを祈りなさいという、イエス様の命令があります。「メシヤ到来による御国」と呼んだらよいでしょうか。バプテスマのヨハネ、そしてイエスご自身が「時は満ち、神の国は近くなった。悔い改めて、福音を信じなさい。(マルコ 1:15)」と宣べ伝えました。イエス様は、悪霊を追い出され、病を治されました。バプテスマのヨハネが、ヘロデによって牢に入れられている時に、イエスが来るべきメシヤなのかどうか尋ねましたが、イエス様は、悪霊を追い出し、病を治し、目の見えない者が見えるようになり、足なえが立ち上

ができるようになっていたことを伝えなさいと言われましたね。そうです、預言者たちが、メシヤが来たら、地上はこのようになると伝えていたことが、イエス様の宣教の働きの中で広がっていたからです。

しかし、イエス様はユダヤ人たちに拒まれて、ついにローマの十字架に付けられました。しかし、このことも神の定めによって起こったものであり、ユダヤ人の指導者らが捨てた石が、礎の石になったということです。罪の贖いをするいけにえになってくださった、ということです。けれども、甦られたことによって、ご自身が確かに神の御子、キリストであることをお示しになりました。それで、イエス様が昇天される前に、弟子たちが、「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださいるのですか？（使徒 1:6）」と尋ねました。いつとか、というのは、父なる神が定められていることだ、けれども聖霊があなたがたに注がれる、そしてわたしの証人となると言われました。つまり、イエス様はイスラエルが再興すること自体を否定しておられないのです。そして、約束とおりに聖霊が降り注ぎました。するとペテロは、それはヨエルの預言の成就だということで、御霊が終わりの日に注がれて、それから大患難がり、けれども主の御名を呼び求める者は救われると言ったのです。また、「このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちを通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。（使徒 3:21）」とペテロは話しており、万物の改まる時を彼は既に話しています。

つまり、この地上が改まるということです。被造物が神の栄光の自由の中に入るということです。アダムが罪を犯した時以来、呪われていた土地が贖われて、御心のままに祝福されるということです。聖書の中には、自分の魂は救われたのだから、死んで天国に入って、それで終わりだという考えがありません。必ず、主と共に栄光の姿で戻って来て、キリストと共に御国を相続することになっています。ですから、私たちはこの地上のことについて、関心を持っています。そこには、主ご自身の呻きがあり、私たちの霊は呻いています。もちろん、自分自身の体の贖いの呻きもありますが、被造物全体が呻いているのです。「私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきとともに産みの苦しみをしていることを知っています。そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。（ローマ 8:23）」このように、イエス様が来られてから現れた、メシヤ王国と呼んだらよいでしょうか、そして今は、聖霊によって、教会を通して働いている中間期がありますが、主は必ずご自分の再臨によって完成してくださる、地上の御国があるのです。

ですから、永遠の御国、イスラエルという国、霊的な御国、そしてメシヤ王国があり、そして最終的に、新天新地が造られ、天からエルサレムが降りて来るという御国があります。それは黙示録 21 章以降に書かれています。

1A 悪魔の幽閉 1-3

1B 底知れぬ所 1

1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から下って来るのを見た。

御使いが天から下って来ています。これまでもそうですが、天使が神からの大きな権威と力が任されて、それを行使する姿を見てきています。この御使いは、「底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って」とありますね。底知れぬ所について、その元々の意味は「底なしの縦穴」というような意味合いです。底知れぬ所については、既に9章に出てきていました。「9:1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。」そして、いなごのようなものが地上に出て来て、さそりのような毒をその尾に持ち、五カ月の間、死になくても死ねない苦痛を味わうという裁きがありました。そして、その底知れぬ所には王がおり、その王が、ヘブル語でアバドン(破壊)、ギリシヤ語でアポリュオン(破壊者)と呼ばれているとあります。これが悪魔ですね。このようにして底知れぬ所は、悪魔や悪霊どもが、縛られている所であり、最終的な裁きを受けるのを待っているところと言えます。ルカによる福音書には、墓場にいた男が、レギオンに取りつかれていて、「底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんように(ルカ 8:31)」と叫んでいましたね。

そして今は、悪魔自身が底知れぬところに縛られます。「かぎと大きな鎖」を持っているとあります。鍵というのは、例えば、イエス様ご自身が、「ダビデのかぎを持っている方(3:7)」と呼ばれていました。そして、ペテロはイエス様から、「天の御国のかぎを上げます。(マタイ 16:19)」と言われていました。イエス様から、ご自分の御国についての権威を使徒たち、そして教会に渡すということでした。同じようにして、底知れぬ所に対して力と権威を行使するべく、この御使いが遣わされています。そして、鍵だけでなく大きな鎖も委ねられていますので、サタンが本当に何もできないように、拘束するということを意味しています。

ですから、千年王国は、悪魔の誘惑がないところと言えます。人が罪を犯す時、それはその人の肉、そして神に反抗する世の制度、それから悪魔の誘惑があって成り立ちます。けれども、その重要な悪魔の誘惑がなくなります。世の制度も、悪魔がもはや支配しなくなるので、神の支配と世界の秩序が一致します。ちょうど、それはほとんど全く、霊的に無菌状態で生きているような至福の時です。そこは正義と平和に満ちます(イザヤ 9:6-7)。動物界には、弱肉強食がありません(11:6-9)。環境が変化して、はるかに心地よいものとなります(51:3)。それゆえ長寿が約束されています(65:20)し、健康も約束されています(33:24)。そして戦争がなくなる、農作物の収穫が増える、喜びに満ちている。人々が世界中からエルサレムでイエス様を礼拝しにくるなど、数多くの約束、預言者たちが預言したことが実現するのです。

2B サタン 2

2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕え、これを千年の間縛って、3a 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。

悪魔について、12 章において登場し、悪魔がいたので獣、反キリストがいて、そしてその反キリストの代弁者として、もう一匹の獣、偽預言者がいたことを思い出してください。11 章に、獣が底知れぬ所から上って来て(7 節)、二人の証人を殺すことが書かれています。13 章に、その底知れぬ所にいた獣が、致命的な傷がなおって生還したので、それで人々が獣をあがめ、そして竜をあがめたと書いてあります(4 節)。獣の国の黒幕は、悪魔でありました。そして、ここで 12 章にあったように、悪魔のことを、サタン、竜、そして古い蛇と言い換えています。悪魔は、「敵対する者」という意味です。竜は、悪魔の凶暴な性質を表しています、そして、古い蛇は、もちろん創世記 3 章でエバを惑わした蛇、惑わす者ということです。そしてサタンは、告発する、中傷者という意味があります。つまり、神の国において、敵対者、凶暴な振る舞い、惑わし、そして中傷がなくなるということです。

そして、底知れぬ所を閉じて、封印するのですが、絶対にそこから出られないようにします。そして、千年の間、諸国の民を惑わすことがないようにします。第六の鉢の災いで、竜の口、獣の口、もう一匹の獣の口から、かえるのような汚れた霊が出てきた、それで東からの王たちが干上がったユーフラテス川を横断し、ハルマゲドンに集まるという預言がありました。このように、諸国を惑わしていました。しかし、千年の間、惑わしません。

なぜ千年の間なのか？これを比喩的なものであると解釈する人たちもいます。一日は千年のようであり、千年は一日のようであるから、これは文字通りではなく、比喩なのだします。しかし、私は文字通りであると見ます。なぜなら、創世記 5 章のことを思い出すからです。アダムが罪を犯したことによって、彼らが永遠に生きられないようになりました。神の御国は彼が罪を犯したことによって、損なわれてしまいました。それで、アダムは 930 年行きました。千年に、七十年足りない年齢で死にました。その後の息子たちでは、メシエラが 969 年行きましたが、千年に満ちなかったのです。主は、このことを意識しておられるのでしょうか、アダムによって損なわれた御国における命を、ここで取り戻すということ、回復させるということがあるでしょう。

3B 千年の封印 3

3b サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

なぜ、解き放されなければいけないのか思うでしょう。第一、なぜ神が全能者であるなら、悪魔をこの世にはびこらせるのをお許しになったのか、と思うでしょう。悪魔さえいなければ、今の世界は

こんなにひどくならなかったのです。先にお話ししましたように、悪魔も実は神のプログラムの中にしっかりと組み込まれています。悪魔は神に反抗しながら、実は神に利用されている存在でもあるのです。そのことを知るのに最適な教材はヨブの話です。彼は裕福で、かつ神を恐れている人でしたが、あるとき、悪魔が神の前で、「ヨブは祝福されているから、あなたを恐れているのですよ。もし祝福が剥奪されたら、たぶんあなたを呪うでしょう。」そこで神は、「よろしい、ではやってみなさい。けれども彼のいのちを奪ってはならない。」と言われました。それで彼は子供たちを失い、財産を失いました。けれども、「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(1:21)」と言いました。彼は、財産がなくても主を恐れていることが証明されました。

このように誘惑や試練が置かれることによって、私たちが本当に主を愛しているのかそうでないのかが分かります。エデンの園の中に、なぜ善悪の知識の木が置かれたのか？それは、他に魅力的な選択肢が与えられていなければ、「私は主が言われたことを守ります」という愛による決断ができないからです。神は人をご自分のかたちに造られました。神は自由意志をお持ちで、自己決定をする方であられます。それゆえ、私たちも自由意志が与えられ、自己決定ができるように造られています。それゆえ、その自由意志を神に背を向けるようにも用いることができ、それゆえ今日まで続く、世界における悲惨が途絶えることはないのです。したがって、悪魔の誘惑によって、私たちは自分が本当に神を愛しているのかそうでないかが試されます。

2A 聖徒たちの復活 4-6

1B 多くの座 4

4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

千年王国が、地上における神の御国の確立であり、悪魔が縛られて、悪魔が神の国を阻止してきたその運動がなくなるということが一つの特徴であります。次に、聖徒たちの復活を完成させてくださるということがもう一つあります。被造物を回復し、それから神のかたちに造られた、キリストによって贖われた者たちを復活させ、御国を受け継がせるという特徴もあるのです。

アダムが罪を犯したことによって、人は永遠に生きるようにされていたのに、そうではなくなりました。罪が入り、死が入りました。しかしイエス様は、「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。(ヨハネ 11:25)」と約束されました。パウロは、死者の復活の順番について話しています。第一コリント 15 章 23 節です。「しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。そ

れから終わりが来ます。」イエスさまが、信じる者たちに先立ってよみがえられました。それまで、預言者エリヤやエリシャの働きによって生き返った者、イエスさまの地上での働きによって生き返った者はいますが、それはみな蘇生であり、現在の肉体が生き返っただけで再び朽ちてしまいます。けれども、イエスさまは朽ちない体をもって甦られました。同じように、朽ちない栄光のからだをもって永遠に生きる方として、イエス様はご自分に連なる者たちの初穂となってくださったのです。

そして、旧約時代の聖徒について、いつ復活するかについては意見が分れます。一つは、主が復活された時に、マタイ 27 章にあるように、復活したということです。「マタイ 27:51-53 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都には行って多くの人に現われた。」エペソ 4 章には、イエス様が天に昇られる時に、多くの捕虜を連れて行かれた、ということを使徒パウロは言及しています(4:8-9)。もう一つは、この時、大患難時代が終わって、イエス様が再臨された時であるとしみます。「ダニエル 12:1-2 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。」

旧約時代の聖徒について意見が別れますが、はっきりしているのは教会の方です。イエス様が復活の初穂となられ、イエス様が天から戻って来られる時に、教会が携挙する時に、既に死んだ者たちは甦り、生き残っている者たちは一瞬にして変えられて、引き上げられます。エノクのように、そのまま天に移される者たちもいるということです。「1テサロニケ 4:15-17 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一っしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」

そして、今ここに書いてあるように、患難時代の時に死んだ者たちが、大患難が終わり、主が地上に戻って来られてから甦るのです。

そして今読んだ箇所には、二つのグループ、厳密に言うならば三つのグループに分かれます。初めに、「私は、多くの座を見た」とありますね。これは教会のことです。イエス様が、ラオデキヤにある教会に対して、「勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。(2:21)」と約束されています。そしてパウロは、コリント第一 6 章にてこう言っています。「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、

あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということ、知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。(2-3 節)」イエスさまが再臨されて神の国を立てられてから、クリスチャンはイエス様と同じように裁きの座に着きます。

そしてもう一つのグループは、「イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たち」とあり、患難時代に殉教した人々です。これを細分すると、「イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たち」というのは、患難期の前半に殉教した人々です。「6:9-10 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか。」」そして、獣の国が患難期半ばから始まりますが、その時に刻印が押されるのを拒めば、必ず殺されます。そうした者たちが、今ここで甦っているのです。

2B 生き返らない死者 5

5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。

「第一の復活」とあります。これは、神を信じ、イエスを信じた者たち、聖徒たちの復活です。イエス様が初穂であり、そして旧約の聖徒たち、そして教会、そして患難期において神を信じ、イエスを証する聖徒たちです。これをもって第一の復活が完成します。イエス様が、「墓にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。(ヨハネ 5:28-29)」と言われましたが、この甦って命を受けるということが完成するのです。

そして、第二の復活と呼んでよいでしょうか、それもあります。不信者の復活です。それは次回、11 節以降の、最後の審判の時に甦るところに出てきます。「そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。」というの、不信者たちのことで、彼らは死んでハデスに下っています。千年の間、その状態にあるという事です。

死ぬということは、第一コリント 15 章で「最後の敵」と書かれています。死が人々に悲しみ、苦しみ、叫びをもたらしますが、その本質的な意味は離別です。結びつきが命であるのに対して、別れるのが死です。魂あるいは意識が肉体から別れたら、肉体の死です。意識が神から離れている時、それが霊的な死です。そして死後に神から離れている時、それが永遠の死という事ができます。そしてそれを滅ぼすために、イエス様は来られました。霊的に新しく生まれさせ、神と結びつかせます。そして肉体においても、復活させることによって神と結びつかせます。そして、永久に神の都

に住むようになり、一つにされるのです。これこそ、永遠の命です。

3B 千年の統治 6

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

第一の復活にあずかる者が「幸いな者、聖なる者」であるとありますが、それはキリストに似た者とされているからです。「キリストが現れたら、私たちはキリストに似た者になることがわかっています。(1ヨハネ 3:2)」とヨハネが手紙の中で言いました。罪のないからだを持っています。そして「第二の死は、何の力も持っていない」とありますが、第二の死については 14 節に書かれていますので、そのとき詳しく説明します。第二の死があるのですから第一の死もあるのですが、それは肉体の死です。第一の死については、信者として経験します。しかし、第二の死、永遠の死については力を持っていません。これこそ、私たちにとっての慰めです。これこそ、私たちが迫害を受け、たとえ殉教しようとも、それでも神を選び取る力になります(ルカ 12:4-5)。

そして「彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」とあります。教会と、患難時代に殉教した人々が祭司となり、また王となります。そして教会にも、この約束が 1 章において与えられていました。「1:5-6 イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちが罪から解き放ち、また、私たちが王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。」千年王国の時には、王の王、主の主であられるイエス・キリストが世界を統治して、そして信者たちがイエスさまが委任統治として割り当て地が与えられます。そこで、大患難時代を通り抜けて生き残った人々を、祭司として王として導くのです。

そして、これが本質的に、「御国を受け継ぐ」ということなのです。私たちが神の子になるということは、神の相続人になるということであり、御国を受け継ぐということでもあります。「1:10-11 時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。」ですから、私たちが今、行なっていること、それは御国に入るための準備と言って良いでしょう。地上にあるものの良き管理者になるということです。「さて、最初の者が現われて言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』(ルカ 19:16-17)」